

まとめ・閉会挨拶（要旨）

皆さん、お疲れ様でした。8グループのご報告を聞かせていただいて、中身の濃い話合いができたのではないかと感じておりました。本日は、令和4年度の活動方針である地域移行・地域生活支援における地域課題を考えるということで、社会資源がテーマでしたが、多くのグループで、先ず、ご本人が希望していること、やってみたいということが原点であるという確認ができたと同っておりました。

ご本人の希望というのは、ご本人の中で自然に出てくるというよりも、やはり関わる人たちが育んでいく、関係性が育んでいくものだと思います。話題提起の中で、関わる人によって、ご本人の違う面が出てくるというお話もありましたけれども、私たちの眼差し、さまざまな人の眼差しが、その人の希望を育んでいくということが一つ重要な点だということが確認できたと思います。

そして、ご本人の希望を実現していくために、いろいろなハードルがあるけれども、どこに阻害要因があるのかということについて、皆さんからさまざまなご発言があったのではないかと思います。できないことを挙げると、たくさんあるけれども、それをどのように工夫して乗り越えていったらいいだろうか、その阻害要因をどう変えていくかというところに、皆様の様々なアイデアや工夫というものがある。自治体による独自の取り組みであるとか、支援のバリエーションを増やしていくことを考えておられると思いました。

それぞれの地域における課題で、今どこが一番ネックになっているのだろうかということをアセスメントして、例えば不動産屋さん働きかけていくことが、まずは必要ではないかとか、あるいは支援者のスキルアップが必要ではないかとか、ご家族が抱える不安に対するサポートや、こういうサービスがあって、こういう生活ができるということを伝えていくことが必要だろうかとか、そういったことを各地域の協議会で議論しながら、どのあたりからターゲットを絞って進めて行こうかという話になるのかなと思っ同っていました。

今日、ほかの地域の話聞いて、「うちの地域にもそういうものがあつたらいいな」というのもたくさんあつたと思います。それぞれ地域によって強みと弱みというものがあつて、やはり、「うらやましいなあ」と思ふ地域も確かにあるけれども、それで終わらせないことが必要だと思っ同っています。最近、私自身が参加した地域移行に関する勉強会で、もしこの方がほかの地域だつたらもっと違つた支援ができたかもしれないという話を聞いたときに、そこには生身の人がいるわけですから、私はすごく切なくなつたというか、胸が苦しくなる思いがしました。

やはり、色々な課題はあるけれども、その人の希望とか、その人らしい暮らしという原点に立ち戻りながら、それぞれの課題を一步でも二歩でも前に進めていただけるとよいと思っ同っていました。

今日、知り合つた皆さんは、是非今後も連絡取れるようにしていただいて、そちらはどうしているとか、情報交換をしていただきたいなと思っ同いました。

ちょうど今日と明日にかけて、国連の障害者権利条約の日本審査が行われるところです。その人が地域で暮らす権利の実現が当たり前ではないという現実を、どう変えていこうかということ、私たちひとりひとりが肝に銘じてというか、改めて考える機会にできればよいと思っています。

本日は長時間になりましたけれども、多くの意見を挙げていただきましたし、また明日につなげていければよいと思っています。本当にありがとうございました。